

【様式1】 ※A3版(1枚)に収める。

令和3年度 英語教育充実プラン 香美市立大宮 小学校		研究テーマ (英語教育推進方針)	「小中学校の9年間を通して、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」 ～目標・指導と評価の一体化に関する研究～		
年度当初の状況(4～5月調査を記載)		到達目標	年度末の到達目標達成状況(2月調査を記載)		
調査項目(意識調査の項目)			肯定的回答%	達成状況	考察
児童	①英語の授業で英語を使って発表することが楽しい。	1 児童の意識調査 ①英語の授業で英語を使って発表することが楽しい。 (高)84.0%→88.0% (中)75.4%→80.0%	(中)75.4 (高)84.0	設定した3項目すべてにおいて目標値を下回る結果となった。また、年度当初と比較しても肯定的回答の割合が下がった(②の中学年の肯定的回答が0.4ポイント上回る)。特に、②高学年については-26.7ポイントという結果になっている。	教員が単元ゴールに向かう気持ちが行き過ぎて、本時のつけたい児童の姿を見失うことがあった。そのため本時で十分な言い慣れができずに次のゴールを目指してしまう。児童にとっては、自信がないまま活動し、達成感をもてなくなる。形成的評価をしても、それが授業改善へと結びつかなかったことが大きな原因であると思われる。
	②英語が好きだ。	②英語が好きだ。 (高)90.2%→93.0% (中)79.6%→83.0%	(中)79.6 (高)90.2		
	③英語を使って、自分たちの地域や、日本の文化を外国の人に紹介してみたいと思う。	③英語を使って、自分たちの地域や、日本の文化を外国の人に紹介してみたいと思う。 (高)83.7%→87.0% (中)77.8%→82.0%	(中)77.8 (高)83.7		
教員	④言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくりについて理解できている。	2 教員の意識調査 ④言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくりについて理解できている。83.3% → 95.0%	83.3%	設定した3項目すべてにおいて肯定的回答の割合が100%であった。特に⑤の「新教育課程を活かす能力ベースの授業づくり」等を活用して、授業の工夫・改善を行うことができていた。については大幅に数値が改善された。最肯定回答に限定すると、④においては16.7%→57.1%と大幅に意識に改善が見られた。	授業研究会、それに伴った校内研修により、教員の意識が向上したと思われる。「新教育課程を活かす能力ベースの授業づくり」についても、校内研修の中で引用し確認していった。小中のつながりについては、講師からの指導内容を、実際に小中の学習指導要領で確認・共有できたため、教員意識が高まったと思われる。
	⑤「新教育課程を活かす能力ベースの授業づくり」等を活用して、授業の工夫・改善を行うことができています。	⑤「新教育課程を活かす能力ベースの授業づくり」等を活用して、授業の工夫・改善を行うことができています。 66.7% → 80.0%	66.7%		
	⑥小中のつながりを意識した指導ができています。	⑥小中のつながりを意識した指導ができています。83.3% → 100%	83.3%		
到達目標達成のための取組		取組計画		指標達成状況	
項目	成果指標	5～2月		達成状況	年度末評価
英語教育の推進体制の整備	教員意識調査1 100%(最肯定)→100%(最肯定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元計画に沿った授業計画を立て、ミーティングを行う。</li> <li>校内研修の計画を全体で共有し、見直しをもった取り組みをする。実践型交流研修では、評価についてのレポートを持ち寄り、授業の充実を図る。</li> <li>先進校視察及び授業づくり講座などに参加をし、内容の共有を図り本校の授業実践につなげる。</li> </ul>		教員意識調査1:最肯定回答100% 毎時間ALTや推進教員との打合せ・振返りの時間を確保することで連携を図ることができた。また校内研修を週時程に位置付け計画通りに進めるとともに、体験型の研修を取り入れ、教員が実践を通して学習指導要領の趣旨をより深く理解できたと思われる。また県内外の先進校の実践や講師の指導・助言を外国語研修で共有できたことも成果の一つである。	A
小中連携による英語教育の充実	教員意識調査13 83.3%(最肯定)→100%(最肯定) ※肯定的回答は100% 教員意識調査14 83.3%(肯定)→100%(肯定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>CAN-DOリストをより中学校との接続を意識した内容に修正する。</li> <li>小中と授業公開するにあたり、教材研究や授業研究をできるかぎり合同で行う。</li> <li>6年生の授業に中学校の教員がT2として入ることで、接続に向けた教材研究を行う。また、授業後の振り返りを行うことで授業の充実を図る。</li> <li>香美市学びをつなぐ学校づくり研究会において、香美市内小・中学校との連携を図る(年間6回)。</li> </ul>		教員意識調査13:最肯定回答71.4% 14:肯定回答100% 教員意識調査公開授業研究会に向けて「小中合同学習指導案検討会」によりCAN-DOリストに基づいた系統的な学びを意識した提案ができた。また日々の実践においても、乗り入れ授業を実施し、小中の単元内容を知り合うことで中学生による小学生へのビデオメッセージ作成やICTを活用した小中交流会、小中で中間交流・振り返りを軸とした授業展開が実現する等、小中の具体的な連携が実践レベルで実現している。	B
目標・指導と評価の一体化を踏まえた評価活動の工夫と授業の質の向上	教員意識調査5 教員意識調査7 教員意識調査8 83.3%(肯定)→100%(肯定) 教員意識調査12 33.3%(最肯定)→60.0%(最肯定) ※肯定的回答は66.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価方針を基にした単元ごとの評価計画の見直し(教師・児童のルーブリック含む)。</li> <li>児童の変容を見取る形成的評価の研究(Let's Talkノートの活用ほか)</li> <li>自己調整学習の具体的な実践</li> <li>授業研究会・英語教育改善プラン研修の実施による校内研修の充実</li> </ul>		教員意識調査8:肯定回答100% 12:最肯定回答42.9%(※肯定的回答100%) 評価計画は現在見直し中である。児童が自己調整する場面を「中間交流」「振り返り」と捉え、教員が問いやしかけを工夫し児童を評価することを全体で確認し、日々の実践を行った。その検証の機会として児童の丁寧な見取りを記録するLet's Talkノートを活用した実践交流を行い、新たな気づきを次への授業改善へとつなげた。	B

※評価 A(十分達成) B(おおむね達成) C(あまり達成できていない) D(全く達成できていない)